

何を教えれば哲学を教えたことになるのか

「哲学的」という神話のありか

成瀬尚志(大阪成蹊大学)

応用哲学会第11回年次研究大会

ワークショップ 「哲学的」という神話: 哲学教育とは何をする事なのか

2019/4/21 @ 京都大学¹

稲岡発表
社会的側面から

笠木発表
理論的側面から

哲学教育とは？

成瀬発表
授業実践の側面
から

発表の概略

- 実際の90分×15回という授業の現場の観点から何を教えることができるかについて考える（特に時間的制約の観点から）
- 成瀬が実際に担当した2大学3タイプの授業実践から考える（教養の哲学の授業）
- いわゆる「アクティブラーニング」を取り入れることを意識した

タイプ1: 倫理学史の知識提供を重視した授業(知識重視型)

タイプ2: 哲学的に考える実践を重視した授業(スキル重視型)

タイプ3: 融合型

タイプ1：知識重視型

受講者数: 15名程度

テキスト: サンドル『これからの「正義」の話をしよう』

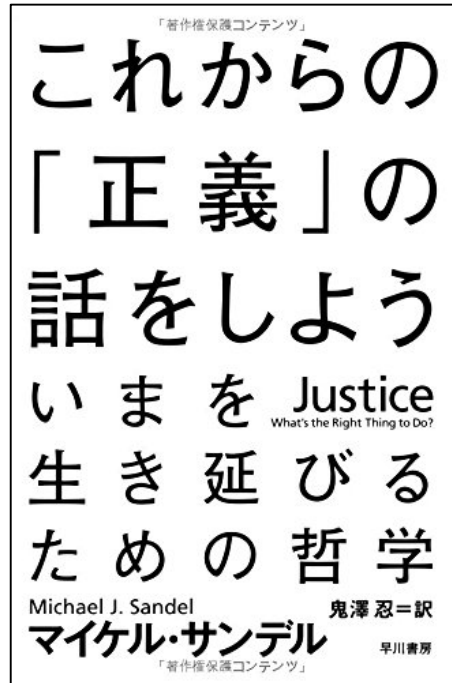
やったこと: 講義→グループワーク→プレゼン(授業内容をまとめる)→コメントシートに授業のまとめを記入

進度: 2回で1章くらい進めた(半期で「第7章 アファーマティブ・アクションをめぐる論争」あたりまで進められた)

うまくいったところ: ある程度教えられた感がある

うまくいかなかったところ: 議論は盛り上がらなかった、グループワークの問いの設定が難しかった

- 知識重視型はグループワークの取り入れ方が難しい(教えた知識がある場合、それが意味「正解」になってしまうので。かといって、その知識を前提としたうえでの議論を求めることも難しかった)
- グループワークの目的設定が不十分だった



タイプ2：スキル重視型

受講者数: 15名程度

テキスト: 野矢 茂樹『哲学の謎』

やったこと: 問いの提示→グループワーク→講義→問いの提示→グループワーク→コメントシートに授業のまとめを記入

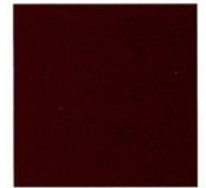
進度: 1回で1章進めた(最後(9章)まで終わった)

うまくいったところ: (授業終了時に)学生が哲学に触れられたように思う、グループワークはわりと盛り上がった

うまくいかなかったところ: 後半のグループワークはあまり盛り上がりなかった。テキストの各章の半分から3分の2程度しか扱えなかった(各章の最後のほうの込み入った話しはほとんど扱えなかった)

- 知識重視型はグループワークの取り入れ方が難しい(教えた知識がある場合、それが意味「正解」になってしまうので。かといって、その知識を前提としたうえでの議論を求めることも難しかった)
- グループワークの目的設定が不十分だった
- テキストが問いベースで設定されていたのでグループワークを取り入れやすかった
- 「何を教えるかではなく何を身に着けたかが重要」とはいえ、肌感覚として身に着けた知識の量が少ない気がする(宿題で補うべきだった)。

哲学の謎
野矢茂樹



「時間は時速1時間くらいで流れている」かな!?

哲学ってこんなに面白い!

講談社現代新書

1 意識・実在・ 他者	<p>【GW】私が死んだら世界も消滅するのか？</p> <p>【GW】私の意識の世界ではなく、「実在の世界」についてどのように知ることができるか？（意識の世界（世界の見え方）は人によって異なる→つまり、今見えているカップは世界にあるものではなく私の意識の中のカップである→でも同じものをみているはずである）</p> <p>【GW】私の意識の世界が終わっても実在の世界や他人の意識の世界が残り続けると言えるだろうか？</p>
2 記憶と過去	<p>【GW】世界は5分前につくられた。遺跡も記憶もすべて。この仮説を反駁できるか？</p> <p>【GW】過去とはどのようなものか？我々の想像上のものか？想像を超えて存在するのか？</p>
3 時の流れ	<p>【GW】時は流れていると言えるか？言えるとするならどのような理由から流れていると言えるのか？</p> <p>【GW】上記で挙げた理由に対して、いやいや時は流れていない、と考える理由を考える。</p> <p>【GW】時が流れているというためにはどのようなことをその証拠としてあげることができるだろうか？</p>
4 私的体験	<p>【GW】他人のしている色と自分が見ている色が異なるということはあるか？</p> <p>・異なるとして、実生活にまったく影響しない場合、つまり会話や行為にまったく影響しない場合、それは異なるといえるのか。</p> <p>【GW】意識のレベルで見ているものが「同じ」とか「異なっている」と言えるのか。そもそもその意識のレベルのものを比較することができるのか。できるとすればどのように説明できるのか。</p> <p>【GW】「私的経験vs公共的言語」言葉では言い表せない「私的な体験」はあるのだろうか。</p>
5 経験と知	<p>【GW】日はまた昇るなどの一般的知識はなぜ成り立つのか？</p>
6 規範の生成	<p>【GW】無人島で1人で生活してきた人にとって、正常と異常の区別はあるだろうか？その区別ができるだろうか？</p> <p>【GW】「異常」と「異例」の違いはなんだろうか？</p>

知識重視vs.スキル重視

(たった二つの実践事例からではあるものの)

- 教えた知識がある場合その知識をどのようにして学生が理解するか？
 - 講義、宿題、グループワークの中で自分で気づく？
- 教えた知識がある場合（ある程度の正解がある場合）、多様な意見を尊重するグループワークとどのように両立させるか？
 - グループワークは、テーマに関する興味を抱くというくらいの位置づけがちょうどよい？ 講義に興味を持ってもらうための準備運動？
- スキル重視型は最後の最後で「あ、これが哲学か！」ということに気づく瞬間ができた。
 - 授業内での議論は、問いの抱えているジレンマを理解することはできたものの議論が「深まる」ということまでには（当然ながら）いたらなかった。
 - 「実在論」や「5分前創造仮説」など一部の哲学的な知識は身についたものの、もう少し哲学的な知識が身につけられたのではとも思った。

タイプ3：融合型

- 科目：哲学（受講者130名、教養科目、全学年対象）
- ねらい：ある程度哲学史のトピックを扱いながら議論の練習もする
- やること：各回で「本日の問い」を示し、その問いについてグループワークなどを通して検討し、その結果を「授業報告シート」に記入し提出を求める。

※「本日の問い」はジレンマや多様な意見が出てくるようなものに設定

時間	やること
10min	配布や返却
10min	前回のシートのまとめを読む時間
10min	前回の振り返りと教員からのコメント
5min	本日の問いの発表と簡単な説明
5min	問いに対する自分の意見をシートに記入
10min	グループで検討
5min	検討したことをシートに記入
10min	講義
10min	授業を踏まえ、問いに対する自分の考えをシートに記入

人間と哲学／哲学 授業報告シート（月 日 限）

学籍番号 _____ 氏名 _____

グループ名前の名前（苗字）

点

本日の問い

自分の考え（わからないことについても書く）

グループワークで出た意見（わからなかったことはメンバーに相談）

講義で説明されたこととそこから考えたこと

講義やグループワークを踏まえて、本日の問いについて自分なりの回答について説明してください

質問・疑問・感想など自由どうぞ（次週に匿名で公開する可能性あり）※採点対象外

授業設計のポイント

- その授業で何が（例えば最終レポートなど）どのように成績評価にかかわるのかを1回目の授業で説明する。
- 成績評価にかかわるものと各回の授業がどのように関連するのかを1回目の授業で説明する。
- 授業内での活動（「講義を聞く」や「グループワークをする」など）がどのように成績評価にかかわるのかが学生に理解できるように説明・設計する（「ゴール」と「今やっていること」の関係を明確にしておく）。
- グループワークを取り入れる前に、まずは扱う問題に対する個人の意見を紙に書かせてから議論を始めたほうがよい（書いたものを披露することで議論を開始できるため）。
- グループワークの位置づけは、その問題に対する他者の（多様な）意見を聞き、その問題に関心を持つ・向き合う準備をする程度がちょうどよい（講義を聴くための準備運動）。90分の中で1回（10～15分程度）くらい。

本日の問い

「哲学には答えがない」とはどういう意味か？

哲学には答えがないのか？

- 下の二つの意見が混在していた
 - 「哲学とは何か」ということに対する答えがない
 - **哲学とは答えがない問題に取り組むことである**
- 「哲学の取り組む問題には答えがないのか？」という問いについて考える
- 「哲学には答えがない？」
 - 「答えがない」はもっと具体的に説明するとどのようなことを意味するのか？このフレーズが意味すると考えられることをできるだけたくさん挙げてみよう。（例：「人によって答えが違う」）

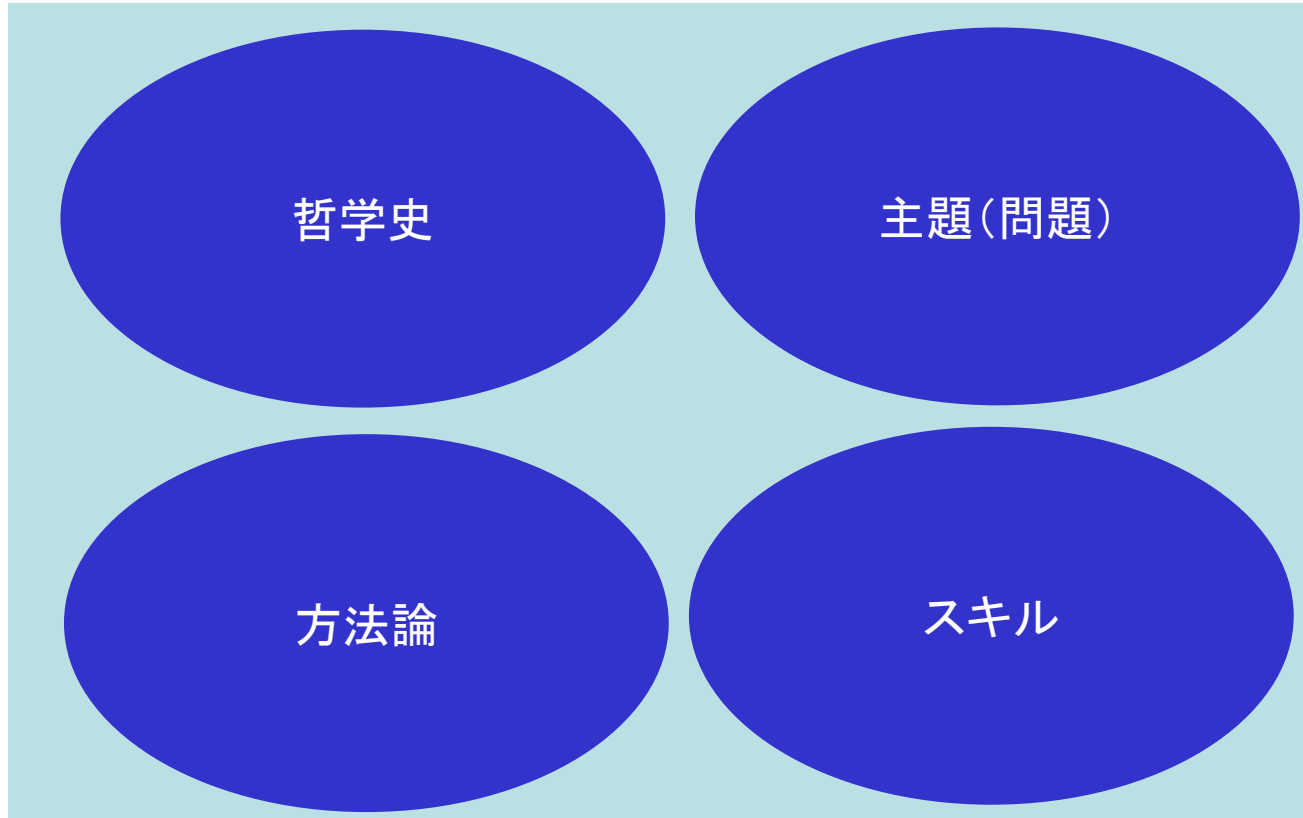
- 文学や社会学や歴史学などには答えがあるのか？
- ある問いに対する考えが人によって異なるからといって、答えがないと言えるのか？
 - 事実と規範の違い：「である」から「べき」は導き出せない。
- 「答えがない」とは？
 - 「答えがない」は「なんでもあり」を意味するのか？
 - 人によって答えが異なる←相対主義
 - 「ぼくらが原子の集まりなら、なぜ痛みや悲しみを感じるのだろうか」という問いに対する答えが「人によって異なる」でよいのだろうか？
 - 答えはあるが「単に今はわからない」だけ？
- 哲学の取り組む問いには答えがないのだろうか？

融合型の感想

(まだ2回しか実施していないが)

- 大人数講義でもグループワークは機能し、講義も熱心に聞いている。
- 授業報告シートの記載内容もほとんどが授業をよく聞き自分で考えた内容となっていた。
- 実際に講義できる時間は10～15分程度しかない（先のスライド2枚分程度）。
- 問いの設定の仕方さえうまくできれば機能するかもしれない。

「哲学教育」
で想起され
るもの



半期or1年の授
業で扱える範囲



まとめ

- グループワークやシートへの記入を授業内で取り入れると説明する時間が思った以上にならない
 - 宿題をうまく活用することで解消できるかもしれない（大人数の授業だと難しい？）
 - アクティブラーニングをそれほど重視しなければ解消できるかもしれない？
- 知識を重視した授業をするとスキル面が気になり逆もそうなる
 - 「哲学教育とは哲学（史）に関する知識を得るとともに、哲学的な思考の訓練もすることである」という欲張りな先入観があるため
- 教えるポイントを極限まで絞り、融合型で進めるのが有効かもしれない
 - その場合でも各回の授業での「問いの設定」は大変かもしれない